って、一度に何本も飲んだり、医者から貰った薬や、ほかの錠剤までも重ねて飲み過ぎたのではないかと考えられる場合もみられます。特異体質の人でなくても、正しい用い方をしないと危険なことです。ビタミン類も沢山の種類が発売されていますが、特にビタミンA、Dなど油にとけるものは余分に服用すると害がありますし、またホルモン剤でも甲状腺ホルモンは続けてのむと心悸亢進や視力障害などの副作用がありますから、十分注意して服用する必要があります。

特に副腎ホルモンは副作用の強い薬ですから医師の指示で使用して頂くことになっています。

先年、サリドマイドという睡眠剤を妊婦が服用したために、生れた子供が奇型児だったということもありましたが、特に妊婦の方が薬を使用される時は、普通の人以上に十分な注意が必要です。

肝腎なのは色々の薬の宣伝に迷うことなく、薬をのむときはよく医者の注意を守り薬剤師や薬局の方に十分相談されて、正しく使用すると共に、薬の乱用を慎しんでいただくということです。

塩屋漁港の改修工事

3月17日（水）送放

飽託郡河内芳野村にある塩屋漁港の改修工事が順調に進み、先月末までに九十%が出来上り、今月中には完成する予定です。

この塩屋漁港の改修工事は、去る二十六年度から三十九年度までの継続事業として進められてきたもので、工費におよそ八千三百万円がかけられています。工事は延べ四百三十六㍍に及ぶ二つの防波堰を作り、また浚渫工事も二カ所、およそ二万八千立方㍍にわたって行なっているほか、荷上げをする場所も新たに作られました。これが完成しますと漁港としての能力は、工事をはじめる前の十倍の力を発揮できるようになります。

つまり、二十㌧あまりの動力船が干潮時にもいつも出入りできることになり、また船付き場も多くなるわけです。ところで、山に囲まれた波静かな入江は、昔からよく「天然の良港」という言葉でいわれてきましたね。しかし現在では、このような考え方が大分かわってきています。

漁港についてみましても、漁船の数もふえトン数も大きくなり、また経済性の面からもより早く獲った魚を流通過程に送りこまねばなりませんから沢山の船がいつも出入りし、より早く荷上げができるようなものでなければなりません。

ですから、今日の良港は、天然にあるものではなくて、人がその目的に副うように造ったものということができましょう。

ところが、この「港をつくる」仕事は、仲々厄介で根気のいる仕事でもあります。というのは仕事の大半が水の中の仕事で、道路や建物などの仕事と違って、できあがってしまうまでには、人の目につくことも少なく、また建設に要する費用も日数も非常にかさむのが普通です。それはともかく、港というと普通には、商業港と漁港をひっくるめていいますが、漁港の関係は、県では水産課、そのほかの港は港湾課でとりあつかっています。

漁港の工事はこのほか、去年暮から今年にかけて改良されたものに、天草郡龍ガ岳町の小屋川内港や、芦北郡の田浦港、天草郡苓北町の坂瀬川港などがあって、水産業の発展のための一助となっています。

軌道にのるジャリ採取

3月20日（土）送放

去年開らかれた東京オリンピックでは、建設工事のブームが起こりましたが、熊本でも、やはり、あちこちでビルの建築が盛んなようです。こうした建築工事が盛んになってきますと、当然、建築資材、なかでも砂利の需要が大幅にのびてくるわけで、現在、熊本で、年間、百万立方㍍、およそ百八十万㌧の砂利が使われています。

熊本の場合、砂利は、ほとんど、緑川や白川、菊池川など、河川の天然砂利を取っています。特に、需要の八割をまかなっている緑川には、砂利業者が集中しています。ところで砂利を取るには、河川法という法律によって、県知事の許可が必要です。これは川の安全を守るためです。

ところが、最近の砂利ブームから、なかには許可を受けないで取ったり農業用水のための堰の附近や、護岸堤防の附近など、砂利を取ることを禁止されているところから取ったりしている、悪質な砂利業者がふえてきました。

そして、実際に緑川や白川、菊池川のまわりでは堰がこわれたり、農業用水に影響があらわれたり、いろいろの公害もでています。ある程度は、川の土砂を取ることが、川の氾濫を防ぐのに役に立つのですが、むやみと掘ってしまうのでは、逆に、非常に危険なことになります。

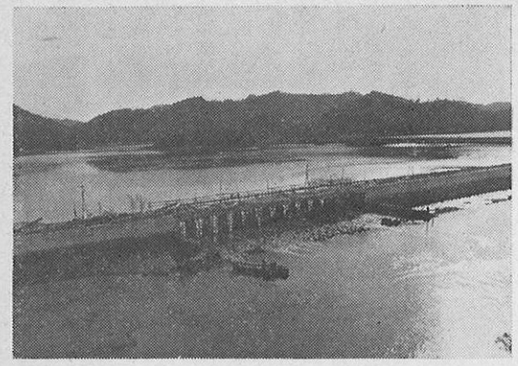
オリンピック施設の工事のため、すっかり川床を荒らされてしまった相模川は、とうとう危険な状態になってしまって、砂利採取を全面的に禁止しています。

こうした非常措置をとらなければならなくなったのも、ルールを守らない砂利の取り方をしたためです。熊本県では、三月に完成する九州地方建設局の緑川断面調査にもとずいて、堤防、堰などの調査を行なって、砂利を取ってもよい深さとか、幅などを決める一方、砂利採取の

業者にも、正しい砂利の取り方を守ってもらうことにしていますが、今後は、こうした指示に従って、砂利をとるよう望んでいます。

津奈木と阿村の干拓の潮止め式

3月23日（火）送放



今朝早く芦北郡津奈木町の津奈木干拓の潮止め工事が行なわれ、また午後三時には、天草郡松島町の阿村干拓の潮止め工事が行なわれました。

この干拓は海の中に堤防を築いて中の水を排水し、新らしい農地を作って、農家の経営規模を大きくするのが目的です。まず津奈木干拓は、津奈町の大泊（おうど）と早栗（はやぐり）の二つの場所の間を締切って四十五・三㌶の干拓地を作り、新らしく三十三㌶の農地を造成しようというものです。

この工事は三十四年度から始められ、来年度には完成の予定です。

締切りに必要な資金は、およそ三億円で、三分の二を国が補助し、残りの三分の一を県と地元が負担します。

この工事が完成しますと、新らしく生れた農地三十三・九㌶を八十六戸の農家に耕作して貰うことになっています。現在、これらの農家が経営している面積は平均六十一㌃ですが、完成後は一戸平均九十三㌃の耕作面積になるわけです。そしてその結果、一戸当り、およそ十五万円の収入の増加が見込まれています。

一方、阿村干拓は天草郡松島町釜と大瀬の間の阿村港の一部を締切って、およそ三十四㌶の干拓地を作り、およそ二十九㌶の農地を新しく作ろうというものです。

三十三年度に着工し、来年度には完成の予定です。費用はおよそ二億円で、津奈木干拓と同じ様に、国が三分の二、県と町が残りの三分の一を負担します。

現在、松島町、阿村の農家戸数はおよそ五百戸で、一戸あたりの耕作面積は平均二十六㌃で、その内、水田は六㌃しかありません。自家用の米にも、こと欠く状態です。

しかし完成後は、経営の規模を拡げるために、五十七戸の農家にそれぞれ五㌶の水田を、耕作して頂きます。その結果は一戸あたり、米にして三千二百㌔の増産が見込まれ、所得にして二十万円近くが増える予定です。来年度は、このように二つの新しい農地が生れるわけで、地元の人たちの期待も大きいようです。

楠浦ダムの定礎式

3月25日（木）送放

動物にとっても、植物にとっても、水はなくてはならないものです。動物や植物の体は、平均して八十%以上が水分から出来ているという事ですから、水が無くなったらたいへん困るわけです。そこで水田や畑を新らしく開いたり、又収穫の増加をはかろうとする場合には、まず必要な水をどの位、供給することができるかという問題が起ってきます。

暫らく、雨が降らないと、土が乾いてしまって地割れがする様でしたら、作物の成長も、いいはずがありません。この二十三日に、ダムの定礎式が行なわれた本渡市の楠浦地区も、これまでは、半月も日照りが続くと、田んぼの殆んどが地割れを起すといった状態でした。

そこで、熊本県では三十四年度から、この楠浦地区を流れる方原川を締切って、溜池を作り、水田や畑に十分な水を注ごうと計画しました。

そしてこれまでに、県道の付替工事や用地売収などを行なってきたものですが、これからは本格的に溜池を作る工事にかかるわけです。

この溜池の堤の高さは、三十二㍍で、長さは百三十九㍍、幅は七㍍半で、堤だけの大きさでも、熊本市内のデパートが十もはいってしまう大きなものです。

そして溜池には、熊本市内で使う水の量のおよそ百日分に当る百万立方㍍の水が、たくわえられることになります。

そして、この水を四千五百五十㍍もの長い溝を作って、この楠浦地区一帯にふんだんに配ろうという計画です。

工事が全部でき上るのは、四十三年度の予定ですが、完成しますと、百七十三㌶の水田と、百三十四㌶の畑地、合せて三百七㌶の田畑の水不足の悩みを解消出来る事になります。

その結果は、米が六十㌧、みかんなどの柑きつ類がおよそ二千九百㌧の増産が見込まれています。

熊本県では、こういった土地改良事業は耕地第一課でうけもっていますが、楠浦地区以外にも、宇土郡一帯や玉名南部、球磨郡の南部、それに八代でも、土地改良事業を進めています。

農山漁村住宅の資金かり入れ

3月26日（金）送放